

羽幌町立羽幌中学校

学校経営方針

令和6年度 学校づくりプラン



校訓

自学 自律 協力

令和6年度 学校教育目標

安心して学べる学級を築き、主体的に行動ができる羽中生

今年度の Keyword

安心感 寛容力 主体性

保護者・地域の皆様へ（今年度の学校経営）

「目標設定の背景（根拠）」

校長 西山 智章

現在の義務教育では、子どもたちに対して、予測困難な課題について柔軟に対応しながら、仲間と共に解決を図ることができるチカラの育成が求められています。また、持続可能な社会や、これまで以上に多様性が尊重される社会の実現を見据える中、従来からの常識のみならず、新たな発想で課題を解決していく探求的な資質・能力も重要視されるようになっていきます。

そこで本校では、従前までの画一的で一方的な教師からの教え込みによる、いわゆる“やらされる”学習ではなく、子どもたちが意欲をもって課題に取り組み、仲間と共に高め合い、支え合いながら、“自ら学びとる”学習ができるようになることを最大目的とし、上記の教育目標を定めました。

今年度の学校教育目標は「集団」と「個人」へのアプローチを2つの大きな柱としています。

集団の育成においては、**心理的安全性の高い学級づくり（集団づくり）**を目指します。

心理的安全性が高い学級とは、少数意見でも、異質な意見でも許容する環境がある集団です。「みんなと違う発言をしたり、答えを間違ったりすると、否定されたり、冷やかされたりする…」そんな環境では安心して発言することができず、意欲をもって楽しく学ぶ学級にはなり得ません。

そのため、意識的に多様な意見や考えを受け入れる態度を生み出すような学級づくりに努めます。心理的安全性の高い学級づくりを目指し、授業への望ましい取り組み方や学級集団での支持的風土の醸成など、近年の本校の継続した課題をクリアしていく所存です。互いの意見や考え、個性や特性が尊重されることにより、安心して発言したり、

行動したりしながら授業に取り組むことができる学級集団であれば、自ずと学習意欲が高まり、家庭学習を含めた自主学習の質的な向上も図れるものと考えています。

子どもたち一人一人の「個人」への目標としては、**主体性をもった自己肯定感の高い人の育成**を目指します。

昨年度は、学校評価や道徳のアンケート、全国学力・学習状況調査等の諸調査の結果、生徒理解ツール「QU」などの分析から、自尊感情や自己受容感などの自己肯定感の向上、メタ認知能力（自分を客観的に見つめる能力）の向上、個別の教育的な支援を要す生徒への適切な対応などが課題として挙げられました。

そのため、一人一人の自己肯定感を高めつつ、自分から進んで学びに向かい、望ましい行動ができるようになることを目指していきます。これにより、自ずと授業や行事、生徒会活動や係活動などでの「自分で考え、気づき、動く」ことにつながり、主体性が高まっていくものと考えています。

これらの目標を達成すべく、教職員が子どもたちにとって身近な大人として望ましい態度で振る舞い、更には、教職員がアタマとココロに余裕をもって教育活動に当たるために「学校における働き方改革」についても並行しながら、今年度の学校運営を進めて参ります。

今年度1年間、保護者・地域の皆様と本校の目標や方針を共有すべく、ご理解とご支援を賜りますよう、何卒、よろしくお願いいたします。

Point_01 安心して伸び伸び学べる、寛容的で協働的な学級づくり



誰もがウェルビーイングを感じられる居場所になる学級
「間違いや失敗は当たり前！」と、互いに寛容することができる学級



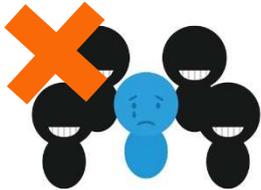
少数・異質な意見も尊重を



「教室はまちがうところだ」

※蒔田 晋治(著)

Point_02 誰ひとり取り残さない、発達支持的な個々への関わり



一人一人の悩みや「困り感」に寄り添うような子どもとの関わり
小さな「サイン」を見逃さないような子どもたちとの関わり



いじめの未然防止・撲滅



教育相談活動の充実

Point_03 主体的な学びを育むための授業改善と学力向上



主体性による「個別最適な学び」と寛容力による「協働的な学び」の具現化



「先生にやらされる授業」から「自分から学びとる授業」への変換

テストや宿題の本質的な見直し
【学習評価の在り方】

授業づくりの研修
(教師の研鑽)



端末の効果的活用

GIGA スクール構想の完全実現

Point_04 未来を主体的に捉え、社会的な自立を目指す進路学習



15歳(卒業)の姿をイメージし、主体的に進路を考えることができる場づくり
社会常識の理解と、マナーや思いやりなどの社会人に向かうことへの意識の形成



夢と希望を膨らませる進路指導

キャリア教育

社会への適応能力



寛容的で安心感のある「学級風土」が全ての教育活動の基本

自分が考えて、行動し、責任をもって最後までやり遂げるといった主体性を発揮する場面を意図的に設定し、小さな成功体験を重ねて自己肯定感を高める。

子どもが考える、判断する、行動する

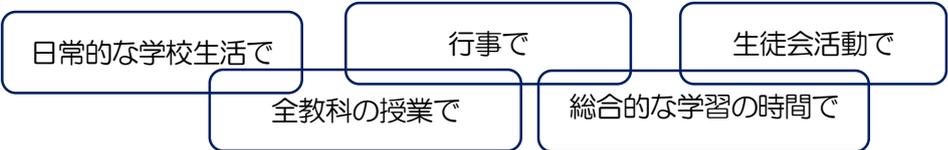
学級づくりの柱

道徳で学び 学活で実践

「特別の教科 道徳」で道徳的な判断力や心情を学び、学級活動で「考える、交流する、決める、行動する」などの実践力を養う。



自己肯定感を高めてココに向けて主体的に取り組む子ども



羽幌中教職員はあらゆる活動で子どもたちをサポートします！

日本全国が直面している教育課題へのチャレンジ

毎日、心身が元気な状態で子どもたちの前に立てるよう、教職員の身体的・精神的な負担を軽減すべく、働き方改革に努める。これまでの当たり前を見直し、子どもの成長を最大目的としながら、教職員の業務整理を行う。

ココロとカラダに余裕をもって！



1年間の Step

1学期「前期」 ～形成期～ 【つくる】 羽中の風土を築く

前期（1学期末）学校評価



学校づくりプランの見直し
【後期学校づくりプラン】

2学期「後期」 ～定着期～ 【根ざす】 ホンモノのチカラに

12月に結果を出す

後期（2学期末）学校評価



令和7年度スタートプラン

3学期「準備期」～移行期～ 【伸ばす】 次なるステップへ

卒業 & 進級

令和7年度へ